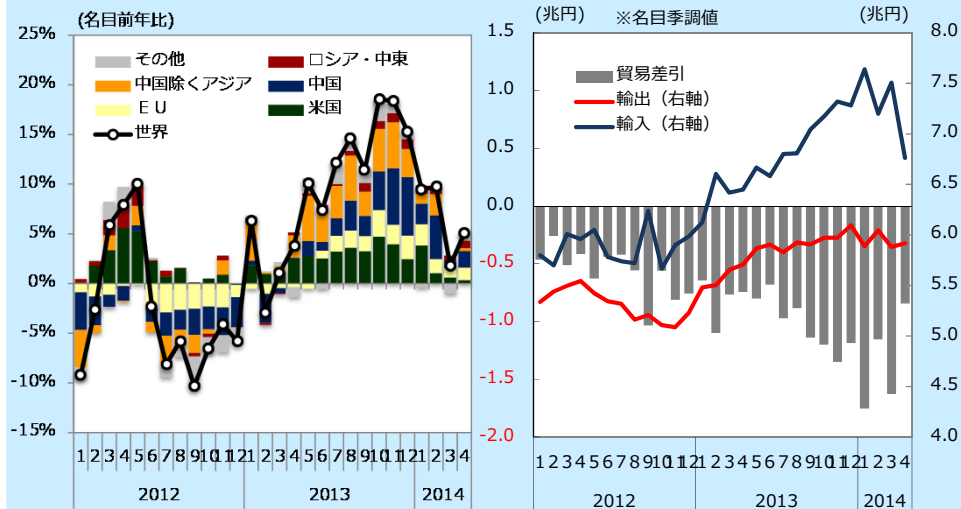


## 日本：貿易統計（2014年4月）

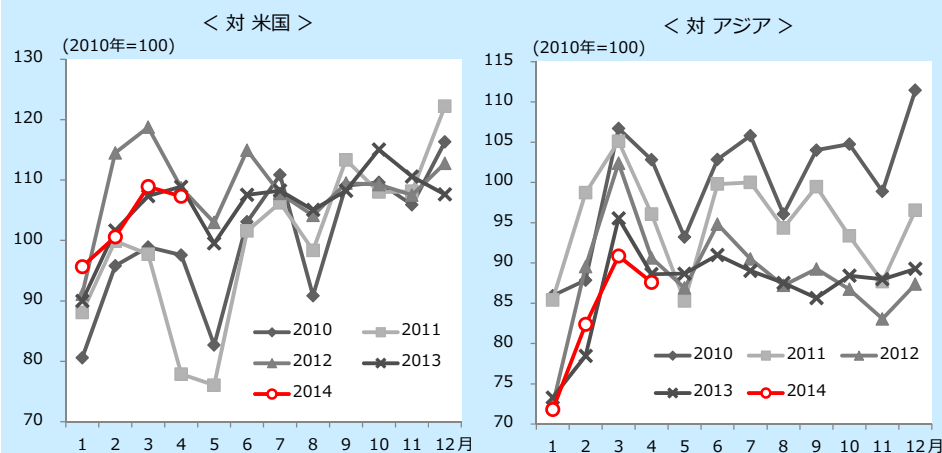
MRI Daily Economic Points  
May 21, 2014

## 地域別輸出

## 輸出入と収支



## 地域別輸出数量指数



資料：財務省「貿易統計」

## 評価ポイント

## 2014年4月の結果

- 4月の貿易収支(季調値)は、▲8446億円となり、前月の▲1兆6268億円から赤字幅は大幅に縮小した。4月の輸出は、前年比+5.1%と前月(同+1.8%)から伸びを拡大したものの趨勢的に伸びは鈍化している。輸入は同+3.4%と、前月(同+18.1%)から伸び幅が大きく縮小。
- 輸出の趨勢的な伸び鈍化は、円安効果の一巡などにより輸出価格指数の伸びが鈍化している影響が大きいほか、数量指数も新興国経済の成長鈍化などから前年比横ばい圏内の低調な動きとなっている。
- 4月の輸出数量を地域別にみると、欧州経済の持ち直しを受けてEU向けが同+4.8%と回復の動きを続ける一方、米国向けは同▲1.5%と2カ月ぶりの減少。アジア向けも同▲1.1%の2ヶ月連続の減少と引き続き弱い。
- 輸入は、価格指数が前年比+4.7%と前月(同+5.9%)から鈍化したほか、数量指数は、同▲1.3%と前月(同+11.6%)の大幅増から一転して減少した。4月は、自動車のほか、石油など鉱物性燃料が数量ベースで前年比▲10%超の減少となった。消費増税に加え、化石燃料に対する環境税も4月に引き上げられており、増税後の反動減が大きくなったとみられる。
- 日銀の実質輸出入によると、4月の輸出は前月比+1.3%と2ヶ月振りの増加となった一方、輸入は同▲9.9%と大幅な減少となった。

## 基調判断と今後の流れ

- 新興国経済の減速などから、輸出は低調な推移が続いている。輸入の増加ペースは鈍化したものの、引き続き大幅な貿易赤字が続いている。
- 輸出の先行きは、先進国向けは緩やかな回復を維持するとみられるが、新興国向けは、引き続き低調な推移を予想する。既往の金融引き締めや中国経済減速の影響に加え、タイの政治混乱も新興国経済の景気回復の重石となる。
- 貿易収支は、輸入の伸び鈍化から赤字幅の縮小を見込むが、輸出は上記の景気要因に加え、海外生産比率の上昇など構造要因もあり回復テンポは鈍いことが予想されるため、月▲1兆円程度の貿易赤字継続を見込む。